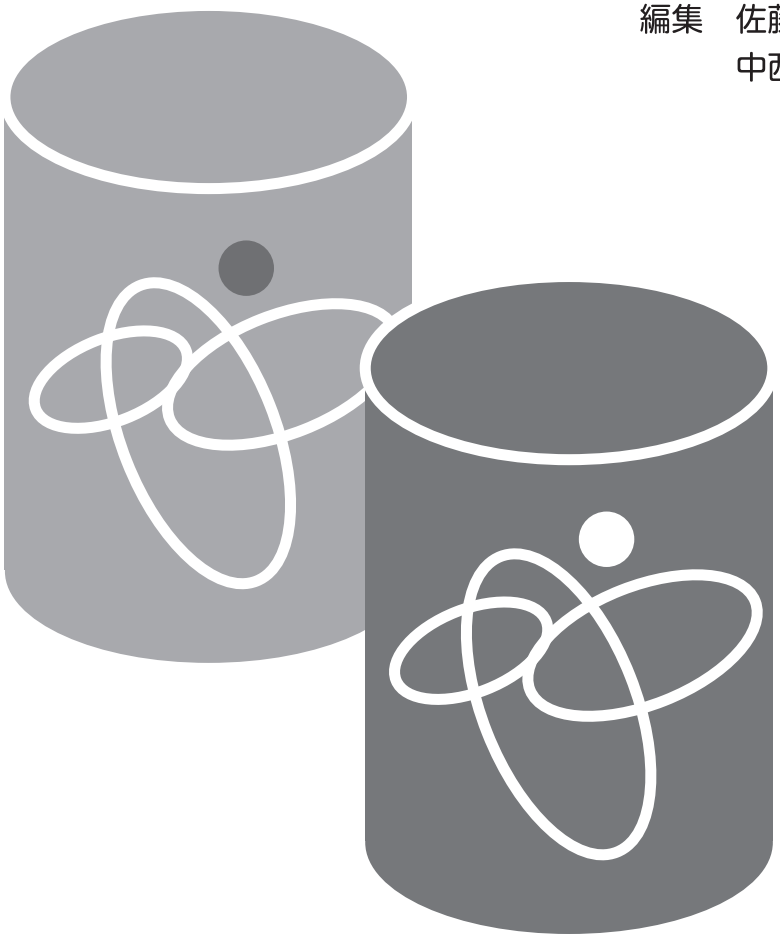
見本

学ぶ・わかる・みえる　シリーズ　保育と現代社会

演習・保育と相談援助

【第２版】

監修　前田 敏雄
編集　佐藤 伸隆
中西 遍彦



みらい

見本

はじめに

本書は、現在保育士養成を行う大学等の教育・研究・現場の第一線で活躍中の教員各位の協力によって、ソーシャルワークの教材として成ったものである。

これはひとえに、皆が我が国の保育のあり方を改善し、さらに充実・発展させるようにとの願いに基づくものである。

本書は、「理論編」「演習編」「事例編」の３編で成り立っているが、特にソーシャルワークの研究は、具体的な事例研究が必要不可欠である。ソーシャルワークの母と呼ばれ、その基礎をつくったリッチモンド,M.も、事例研究からスタートし、そこから理論を導き出した。

ソーシャルワーク研究は、単に対象である個々具体的な子ども本人についてのみならず、その両親、家庭、地域、学校、医療機関、社会福祉施設等の子ども本人を取り巻く環境とのかかわりにも目を向け、さまざまな福祉実現の角度から考察することが重要である。本書の事例は、いずれも保育ソーシャルワークの今日的課題を示している。

なお、本書では最初に基本的な理論を学び、演習、事例と進むが、事例を学んだ後に、改めて理論に戻ってほしい。実践から理論が導き出されたことが理解できるはずである。さらに本書が、保育士として福祉とは何かを理解し、それはいかにあるべきかを追求する手がかりとして大いに役立ち、活用されることを願ってやまない。

最後に、お忙しいなかで執筆いただいた各位に感謝申し上げる。また、直接進行の労をとっていただいた編者の佐藤伸隆氏、中西遍彦氏には厚くお礼申し上げたい。また、（株）みらいの荻原太志氏と西尾敦氏には、本書の出版にあたり大変お世話になった。厚くお礼申し上げる。

平成23年２月

修　文　大　学　教　授
愛知教育大学名誉教授
弘前学院大学名誉教授　前田　敏雄

本書を創案、監修いただいた前田敏雄先生が平成23年５月に本書の発刊を見届けるかのように永眠されました。ここに生前の本書に対する温かいご指導ご鞭撻に衷心より感謝の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

見本

もくじ

はじめに

『演習・保育と相談援助』の活用方法

理　論　編

第１章　保育と相談援助 ……16

1　子ども・子育て家庭の生活 ……16

1　子育て家庭は今　16
2　地域社会の「つながり」の低下　19

2　生活課題の解決と相談援助 ……20

1　生活課題の解決　20
2　相談援助とソーシャルワーク　22

3　保育と相談援助 ……23

1　保育と相談援助　23
2　保育の特性や専門性を生かした相談援助　25
3　保育相談援助　28

コラム

第2章　相談援助とは何か ……30

1　相談援助の意味と視点 ……30

1　相談援助とは　30
2　相談援助の考え方　31
3　相談援助の視点　32

2　相談援助の機能と方法 ……35

1　相談援助の機能　35
2　相談援助の技術　36

3　相談援助の原則と倫理 ……38

1　相談援助の原則　38
2　相談援助の専門性と倫理　40

コラム

見本

第3章　相談援助の過程と連携 …… 44

1 相談援助の過程（進め方） …… 44

1　相談援助の過程　44
2　相談援助の過程における各段階の概要　45

2 相談援助の視点と展開 …… 49

3 関係機関・専門職との連携 …… 50

1　連携の必要性　50
2　チームアプローチ　50

4 ネットワーク …… 52

1　ネットワークとは　52
2　ネットワークの種類　52

コラム

演　習　編

第4章　相談援助者になるために1（自己覚知） …… 58

1 自己覚知とは …… 58

1　自己覚知とは自分を知るということ　58
2　保育士としての自己覚知　59
3　「私」がもつ自分のイメージ　60
4　「私」のなかのものさし　61
5　保育士にとっての価値観　61
6　保育士として求められること　62

2 ワーク　私を知る―私という「私」― …… 63

3 ワーク　私の価値観 …… 65

第5章　相談援助者になるために2（他者理解） …… 69

1 他者を理解すること …… 69

1　価値観の多様性　69
2　相談援助者としての価値観の理解　70

見本

2 共感的理解 ……70

1 共感とは 70
2 共感と同情 71
3 共感的理解の方法 71
4 保育の場面での「共感」と「傾聴」 72
5 「傾聴」が「共感的理解」につながる 74

3 ワーク　価値観について考える ……74

4 ワーク　共感の体験―傾聴すること、されること― ……76

第6章　相談援助者になるために3（基本的態度、コミュニケーションスキル）……79

1 コミュニケーション（言語と非言語の学び）……79

1 保育におけるコミュニケーションとは 79
2 非言語コミュニケーション（Nonverbal Communication）とは 81
3 言語コミュニケーション（Verbal Communication）とは 85

2 ワーク　コミュニケーション（言語・非言語）の理解 ……88

3 ワーク　非言語的コミュニケーションの理解 ……90

第7章　相談援助者になるために４（記録）……93

1 保育活動における記録の意味 ……93

1 記録の目的と意味 93
2 記録の種類 94

2 記録の書き方 ……99

1 記述スタイル 99
2 記述における留意点 100

3 ワーク　文語（書き言葉）で記述する ……102

4 ワーク　客観的事実（エピソード）と主観（考察等）の区別 ……103

見本

第8章　相談援助を行う前に１（生活課題の把握）……106

1 生活課題の把握……106

1　生活課題とは　106
2　生活課題の把握の仕方　108

2 ワーク　身近なところから生活課題を知る……110

3 ワーク　子どもの様子から生活課題を考える……112

第9章　相談援助を行う前に２（社会資源の把握）……114

1 社会資源の理解と活用……114

1　社会資源とは　114
2　社会資源の種類　115
3　社会資源の活用と開発　116

2 ワーク　私たちの周りに存在する社会資源を考えてみよう……118

3 ワーク　社会資源を導き出そう……119

第10章　相談援助の過程１（インテークとアセスメント）……122

1 相談援助の過程について……122

2 問題への気づきについて……123

3 インテークとアセスメント……124

1　インテーク　124
2　アセスメント　125

4 ワーク　保育事例からインテークを学ぶ……128

5 ワーク　保育事例からアセスメントを学ぶ……130

見本

第11章　相談援助の過程２（援助計画）……133

1 援助計画の意義と視点 ……133

1　近年の保育を取り巻く環境　133
2　援助計画作成の意義　134
3　援助計画作成の視点　134
4　援助計画の作成方法　135

2 ワーク　援助計画作成の視点を学ぶ ……136

3 ワーク　保育事例から援助計画を作成する ……139

第12章　相談援助の過程３（実施、評価）……141

1 援助の実施と評価 ……141

1　援助の実施とは　141
2　援助の評価とは　142
3　相談援助における評価の実際　144

2 ワーク　さまざまな立場からのふりかえり ……145

3 ワーク　保育事例についての事後評価 ……147

事　例　編

第13章　事例検討の意義と方法……150

1 事例検討の意義 ……150

1　保育士が事例検討を行う意義　150
2　事例の活用場面　151

2 事例検討の方法 ……152

1　ハーバード方式とその手順　153
2　インシデント方式とその手順　153
3　ロールプレイ（役割演技）とその手順　154
4　事例検討を行ううえでの姿勢　155

見本

第14章　ショート事例集 …… 156

CASE-FILE 1　約束を守らない保護者への対応 …… 156

CASE-FILE 2　親からの苦情への対応 …… 159

CASE-FILE 3　好き嫌いのある子どもへの対応 …… 160

CASE-FILE 4　乱暴な言葉を発する子どもへの対応 …… 163

CASE-FILE 5　発達の遅れの可能性がある子どもと保護者への対応 …… 164

第15章　児童虐待への対応事例 …… 166

1　事例の概要 …… 166

1　利用者・相談援助者の紹介　166
2　相談援助者がＡちゃんの虐待問題にかかわるようになった経緯　167
3　入園以来のＡちゃんの様子とＢ保育士の対応　168
4　保護者への対応　168

2　事例の展開 …… 169

1　Ｚ保育園としての対応　169
2　関係機関との連携　170
3　保護者との話し合いで決まった援助方針　171

第16章　児童養護施設の事例 …… 176

1　事例の概要 …… 176

1　利用者・相談援助者の紹介　176
2　援助に至る経緯　177

2　事例の展開 …… 177

1　インテーク（入所前後の状況）　177
2　Ａくんの安定を図るための援助　178

第17章　ＤＶの事例 …… 183

1　事例の概要 …… 183

見本

1　利用者・相談援助者の紹介　183
2　援助に至る経緯　184

2 事例の展開 …… 185

1　X母子生活支援施設での母子面接　185
2　入所後のかかわり　185
3　守秘義務　186
4　自立に向けた相談　187

第18章　障がい受容の事例 …… 192

1 事例の概要 …… 192

1　利用者・相談援助者の紹介　192
2　利用者が相談援助者との面接に至った経緯　193
3　施設の紹介　193

2 事例の展開 …… 194

1　初回面接（インテーク）　194
2　アセスメント　194
3　援助計画（プランニング）　195
4　プランに沿った援助　195
5　援助の終結　196

第19章　創作事例（ロールプレイ） …… 200

索引　206

見本

第１章　保育と相談援助

学びのねらい

「保育と相談援助」というテーマに、乳幼児の保育を行うはずの保育士が、なぜ相談援助を学ばなければならないのか、それは社会福祉士や臨床心理士の役割ではないのかという疑問を抱くかもしれない。

しかし、今日、家族や地域の姿が大きく変わるなかで、子育て中の保護者や子ども自身には生活上にさまざまな悩みや不安が生じている。

こうしたなか、保育所をはじめとする児童福祉施設と、そのなかで働く子育ての専門職である保育士には、子どもや保護者に対して適切な援助を行うことが期待されている。

本章では、保育と相談援助のかかわりやその役割などを理解し、これから相談援助を学ぼうとする人に動機づけを図りたい。

1　子ども・子育て家庭の生活

1　子育て家庭は今

（1）ある手紙

①ある手紙

○○保育所に通園する、Ｂ太の母親から保育士であるあなたの元に１通の手紙が届いた。まずはその手紙を読んでほしい。

○○先生

いつも子どもがお世話になり感謝しています。お迎えのときに直接お話すればよいのですが、その勇気がないのでお手紙を書きました。

私は、夫の仕事の都合で1年前にこの街へ引っ越してきました。夫は

見本

転勤族で、これまでも3年に1度くらい引っ越しをしています。私たち夫婦には、６歳のＡ子と４歳になるＢ太がおり、この街でいまだに賃貸マンション暮らしです。

上のＡ子は、小さいときから聞き分けもよい子だったのですが、それに比べてＢ太は、私の言うことを全然聞いてくれないんです。夜も寝つきが悪く、たびたび目を覚ましては夜泣きをして、その度に起こされます。すぐに怒っては泣き、物を投げて当たり散らすこともたびたびです。

私は、自分の子にはこう育ってほしいという思いがあり、いつもそう願っているんですが、特にＢ太はまったく思う通りになりません。

夫に相談しようにも残業ばかりで帰宅は深夜近くになり、いつも疲れ果ててあまり真剣に相談に乗ってくれません。近所に知り合いも少なく、たまに出会うお隣さんに相談しても「大変ですね」とは言ってくれますが「自分の子だからそんなに怒らないで」とか「何もわからずしていることだから気にしないで」と私がイライラする原因をわかってもらえません。

本当に毎日、心身ともに疲労と悩みを経験して、自分が生んだ子なのに、大声でどなったり、また、叩いちゃいけないと思いながらも、つい叩いてしまったことも何度かありました。そんな私にハッと気づいて…。

自分がみじめで、世界中の誰よりも苦しみを背負っているように、自分を陥れてしまいそうになります。

②母親の気持ち

この手紙を読んで、あなたは母親が今、どのような気持ちで毎日の生活を送っていると感じただろうか。思うところを記してほしい。

《プチワーク》母親の気持ち

○できるだけ母親の気持ちに近づく努力をしてください。

○たとえば、「もしも、私がこの母親の立場だったら、どのような気持ちになるだろうか？」このように考えたうえで記入してください。（１～２分）

見本

コラム

ソーシャルワークの発展史から学ぶこと

今回この章で取り上げた「相談援助」の基盤となる、社会福祉援助技術、つまり「ソーシャルワーク」については、複数の歴史的歩みがある。「ソーシャルワーク」の１つの種類である「ソーシャル・ケースワーク」の歴史的はじまりは、COS（慈善組織協会）の活動にみることができる。これは1869年にイギリスのロンドンに設立され、以後アメリカなどに広がりをみせた慈善活動である。そこでは、「施しではなく、友人を」という考え方を掲げた友愛訪問（Friendly Visiting）の訪問指導により、貧困者に対して貧困から抜け出すことができるような具体的指導・助言にあたった。しかし、貧困はあくまでも個人の責任という考え方が根底にあり、夫婦仲や親子関係の良否、飲酒の有無などによって救済対象にするかどうかを選別するなど、人格的感化力の及ばない人は「価値のないケース」とされ、見捨てられるところに限界があった。

また、1890年から1920年までの時期は、慈善的・主観的な活動から科学的・客観的な援助へと変換していく時期にあたる。はじめてケースワークを理論的に確立させたのが、アメリカのメアリー・リッチモンド(Richmond, M.)である。社会福祉の歴史を紐解いてみると、貧困、その他の社会的問題を抱えた人は往々にして「個人の努力が足りないから」「その人に問題がある」「その人自身が原因を抱えている」と認識されがちであった。しかしリッチモンドは、クライエントの抱えるさまざまな問題の原因を、クライエント個人にあるとするのではなく、クライエントの生活する周りの環境など社会的なものにあるとした。そして、クライエント個人と社会環境との間の関係調整を行うことがケースワークであると考えたのである。つまり、ケースワーク過程を、個人と社会環境とを結ぶ社会関係の調整とし、社会環境の改善を重視したのである。当時のアメリカ社会では、医者や弁護士といった社会的地位の高い職業は、ほとんど男性で占められていた。しかしながら、ソーシャルワークを実践する専門職、つまり「ソーシャルワーカー」は、優秀な女性がなり得る数少ない専門職のうちの１つであったという。メアリー・リッチモンドは、そういった優秀な女性ソーシャルワーカーのうちの１人であった。

相談援助を考えるうえで、知識や技術等を学ぶことは非常に重要であるが、その根底や基盤をなす、「価値」を学び、時には自分自身の実践と照らし合わせることが必要である。そしてその「価値」については、過去の歴史的事実から学ぶことができるのである。